

スポーツ振興の一助に

バッティングゲージ寄付受納式

2月21日、本年4月に東北初となる女子硬式野球部を創設する仙台大学の同窓会、保護者会から、本市と仙台大学の連携強化のため「オールアルミバッティングゲージ」を寄付いただきました。バッティングゲージは幅約5m、高さ約3mの折り畳み式で、練習環境の充実やスポーツ振興が図られます。

益岡公園野球場で行われた寄付受納式で、同窓会の小島淑子会長は「市民の皆さんにも有効利用していただき、スポーツ振興に役立ていただければ幸いです」とあいさつ。女子硬式野球部の入澤裕樹監督は「野球を通して地域を盛り上げ、目標である大学日本一、大学卒業後に社会で通用する人材を育成していきたい」と意気込みを話していました。

女子硬式野球部は、4月から部員15人で仙南各地区の野球場を練習拠点に活動を開始する予定です。



1_寄付受納式に出席した（左から）保護者会伊野部剛史さん、山田市長、同窓会小島淑子会長、入澤裕樹監督、（後列）女子硬式野球部の皆さん 2_寄付受納式後、バッティングゲージを使用して打撃練習を行う部員

生涯学習の祭典！

第42回公民館まつり

3月4・5日の2日間、中央公民館で「第42回公民館まつり」を開催しました。4年ぶりに単独開催となった今年のまつりには約600人が来場し、発表と展示の部に29団体約200人が参加。生涯学習に取り組む人たちが1年の学習成果を披露しました。また、4日に行われた株式会社MCラボの阿部清人さんによる「おもしろサイエンスショー」では、身の回りにある物を使った科学実験が行われ、次々に起こる現象に会場に居た子どもたちは目を釘付けにして見ていました。また、株式会社仙台89ERSの志村雄彦さんが「地域密着No.1を目指してナイナーズの挑戦！」を演題に、これまでのチームの取り組みと、これからの89ERSについてを自身の選手時代の話しを交えながら、「変化を恐れずにチャレンジを続けることが大切です」と講演しました。来場者、出演者ともに久しぶりのまつりを楽しく過ごしていました。



1_おもしろサイエンスショーでブーメラン投げに挑戦！ 2_文化講演会で講演をする志村雄彦さん 3_発表の部でフォークダンスを披露するFDサークルスマイルの皆さん

適切な応急手当で「助ける力」を

外国人向け救急講習会

2月18日、白石消防署が主催する「外国人向け救急講習会」が白石市防災センターで行われ、仙南地域で働く外国人7人と、白石市国際交流ボランティア4人が参加しました。外国人の方に心肺蘇生法やAEDの使い方を学んでもらい、正しい応急手当を身に付けてもらおうと今回で3回目の開催。講習では外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」が使われ、参加した外国人は「難しい言葉もありましたが、勉強になりました」と話してくれました。



▲訓練用の人形を使い、心肺蘇生法を学ぶ外国人（右）

日本語の美しさやリズムに親しむ

「白石市暗唱読本」暗唱コンクール

2月20日、白石市役所で令和4年度暗唱コンクール表彰式を行いました。本市では、園児から中学生まで5部門で暗唱動画作品を募集。この日は各部門で最優秀賞を受賞した園・学校に賞状やトロフィーなどを授与しました。

コンクールには、ベガルタ仙台や地元企業が協力。「白石市暗唱読本」の活用に取り組む子どもたちのために、昨年は暗唱日を記録できる「夢通帳」とトロフィーを寄付いただき、今年は審査や副賞提供の協力をいただきました。



▲受賞した園・学校の代表者とベガルタ仙台的清水義明取締役（後列左から2番目）

春の訪れを告げるそばの香り

検断屋敷で「寒ざらしそば」試食会

3月16日、材木岩公園内の検断屋敷で「寒ざらしそば」の試食会が行われました。寒ざらしそばは、大寒の日から約2週間、蔵王の清流に浸したそばの実から作ったもの。冷たい水に浸すことでアクが抜け、ほのかな甘みが増し、ツルっとした喉ごしが楽しめます。

出席者は、普通のそばとの食べ比べをしながら、そばの香りと味を堪能していました。市内では材木岩公園内の小原なごみ茶屋で数量限定で提供されています。ぜひご賞味ください。



▲寒ざらしそばに舌鼓を打つ出席者たち